

2026(令和8)年度 第1回 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪
アカデミック・アドバイジングの実践—個別支援から組織的アプローチへ—
開催報告

日 時: 2026(令和8)年7月 17 日(金)18:00~20:00
会 場: キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)
講 師: 清水 栄子氏(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室・学習支援commons 准教授)
司 会 進 行: 佐藤 浩輔 氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会 委員/
大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ)
参 加 者 数: 17 大学 31 名(うち会員外7大学 12 名)
実 施 結 果: 大学コンソーシアム大阪 HP の「参加者アンケート」参照
企 画・運 営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

1. 開催概要

アカデミック・アドバイジングは、アメリカで発展してきた学習支援の一つであり、日本においても近年、学生一人ひとりのニーズに応じた支援として注目されている。本サロンでは、学生の主体的な学びと意思決定を支える観点から、その定義と役割を整理したうえで、個別面談における基本的な考え方や留意点を示した。さらに、組織的な支援体制の必要性を踏まえ、早期支援を実現する観点から、愛媛大学における取組を紹介し、アドバイジングのあり方について、IR との連携も含めて検討した。また、参加者同士の情報交換を通じて、各大学における実践の可能性について考える機会とした。



司会: 佐藤委員

2. 講義概要

講義は適宜、グループディスカッションを取り入れたケーススタディを交えながら行われた。

<到達目標の確認>

- ・アカデミック・アドバイジングの定義と役割を説明できる。
- ・個別面談における基本的な考え方を説明できる。
- ・個別支援と組織的支援の関係を説明できる。

<アカデミック・アドバイジングの定義と役割・個別面談の基本と組織的支援>

アカデミック・アドバイジングは、学生自身による学修目標や将来の目標の設定・達成を支援し、学生の主体的な学びと意思決定を支える教育的支援であり、学生の状況を継続的に把握しながら、一人ひとりのニーズに応じた支援を行うことが重要である。アカデミック・アドバイジングの実践には、個別面談をはじめ、グループアドバイジングやワークショップなど様々な形態があり、大学の理念や体制に応じて実施される。個別面談では、学生の話丁寧に聴き、背景やニーズを把握したうえで、履修、進路、留学、学生生活などの相談に応じ、必要に応じて適切な部署や専門職へつなぐこと(リファー)も欠かせない役割である。また、面談では、すぐに答えを提示するのではなく、質問を通じて学生自身の考えや強みを引き出し、自ら意思決定できるよう支援することが求められる。一方で、知識や情報が不足している場合には、必要な情報提供や助言を行うなど、状況に応じて支援方法を柔軟に使い分けることが肝要である。加えて、面談は事前準備、目標の共有、課題の整理、解決方法の明確化、行動計画の具体化、振り返り、フォローアップまでを一連のプロセスとして行うことが望ましい。さらに、個別支援を効果的に行うためには、情報共有やアウトリーチ(大学側からの積極的な働きかけ)、リファーなどを通じて、教職員や関係部署が連携し、組織的に学生を支える体制を構築することの重要性もお示ししておきたい。



講師: 清水 栄子氏

<愛媛大学の取組>

愛媛大学では、アカデミック・アドバイジングを基盤とした全学的な学習支援体制の構築を進め、学生の学修成果の向上やキャリア形成を目指している。その実現に向け、教職協働による支援体制の整備を進めるとともに、関係部署をつなぐ拠点として学習支援commonsを設置し、キャリア支援担当部署やIR との連携も視野に入れた取組を進めている。また、学生からの相談を待つだけでなく、新入生セミナー出席者への働きかけなどのアウトリーチ型支援を実施し、支援が必要な学生の早期発見と継続的な支援

に努めている。さらに、学習上の課題を抱える学生だけでなく、すべての学生を対象に学びと成長を支えることを重視し、一人の担当者ではなく大学全体で学生を支援する体制づくりを推進している。

<まとめ>

アカデミック・アドバイジングは学生が自ら考え、意思決定できるよう支える教育的支援である。学生一人ひとりの学びと成長を支えるためには、個別支援を基盤としながら、学内資源との連携による組織的な支援を展開することが重要である。また、各大学の理念や学生の実態に応じたアドバイジング体制を構築し、スチューデント・サクセス(学生の成功)につなげていくことも必要である。

3. 閉会挨拶(中村副委員長)

本日は、アカデミック・アドバイジングの考え方や実践について、個人的にも大変示唆に富むご講演をいただいたと感じている。学生一人ひとりの主体性を尊重し、大学全体で支えることの重要性や、アウトリーチによる早期・継続的な支援の必要性について、参加者各位も多くの気づきを得ることができたかと思う。各位には日頃の学生対応を改めて振り返り、スチューデント・サクセスに向け、本日の学びをそれぞれの大学における学生支援の充実につなげていただければ幸いである。



閉会挨拶: 中村副委員長

4. 情報交換会

本編の終了後には、参加者と講師による情報交換会が開催され、大学を越えたネットワーキングが図られた。



会場の様子

5. 参加者アンケート結果

「参加者アンケート」に掲載

以上